

平成30年【第2回】 「いわて復興ウォッチャー調査」結果報告

1 目的

東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、被災地域において復興の動きを観察できる立場にある方々の協力を得て、復興感に関する調査を実施する。

2 調査の概要

(1) 調査対象

岩手県の沿岸12市町村に居住又は就労している方 153名

※原則として、毎回同じ方を対象に調査を実施

(2) 調査方法

郵送法(郵送による発送、返信用封筒による返送)

(3) 調査対象時期

平成30年7月(次回調査は平成31年1月予定)

(4) 調査項目

問1 被災者の生活の回復に対する実感 (生活の回復度、直近6ヶ月間の進捗状況)

問2 地域経済の回復に対する実感 (地域経済の回復度、直近6ヶ月間の進捗状況)

問3 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

(災害に強い安全なまちづくりの達成度、直近6ヶ月間の進捗状況)

(5) 回収結果

有効回収率 83.7%(128名/153名) <前回 83.7%(平成30年1月調査)>

(6) 回答者の属性

①性別

性別	人数	割合
男性	90	70.3%
女性	38	29.7%
不明	0	0.0%

②地域別

地域	人数	割合
沿岸北部	41	32.0%
沿岸南部	87	68.0%
不明	0	0.0%

③年齢別

年齢別	人数	割合
39歳以下	13	10.2%
40歳代	30	23.4%
50歳代	48	37.5%
60歳以上	37	28.9%
不明	0	0.0%

④住宅被害の有無

被災有無別	人数	割合
被災あり	68	53.1%
被災なし	56	43.8%
不明	4	3.1%

⑤ 職業・所属等

- ・ 地域団体・郵便局関連(応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など)
47名(36.7%)
- ・ 教育・福祉施設関連(小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など)
36名(28.1%)
- ・ 産業・経済・雇用関連(漁業・農業従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者など)
45名(35.2%)

■参考■

- 「回復度」「達成度」とは、発災以降における全体の回復状況についてお尋ねしています。
「進捗状況」とは、直近6ヶ月の進み具合についてお尋ねしています。
- 沿岸北部とは、洋野町・久慈市・野田村・普代村・田野畑村・岩泉町の6市町村、
沿岸南部とは、宮古市・山田町・大槌町・釜石市・大船渡市・陸前高田市の6市町です。

※ 調査結果の集計・分析にあたっては、岩手県立大学総合政策学部の協力を得て行っています。
※ 掲載する割合(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

3 調査結果の概要(1) 被災者の生活の回復に対する実感

○被災者の生活の回復度については、「回復した」が29.7%と、前回(21.9%)を7.8ポイント上回ったが、「回復した」「やや回復した」の合計は81.3%と、前回(86.7%)を5.4ポイント下回った。また、「あまり回復していない」「回復していない」の合計は3.1%と、前回(3.2%)を下回った。

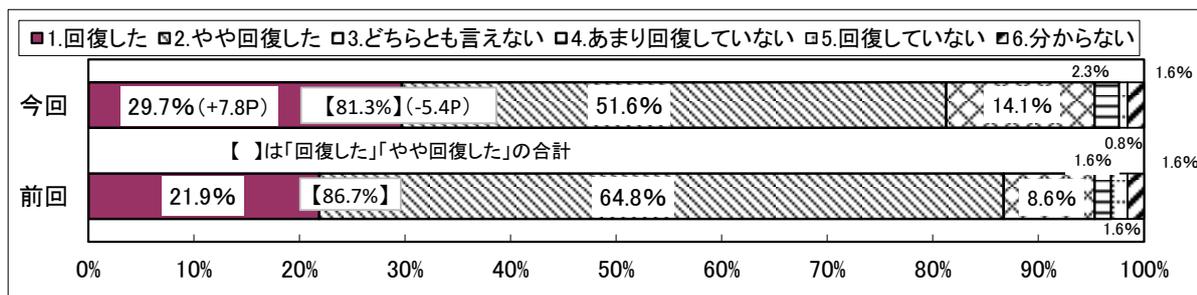
○地域別では、「回復した」が、沿岸北部で48.8%と前回(30.0%)を上回り、沿岸南部でも20.7%と前回(18.2%)を上回った。「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で87.8%と、前回(80.0%)を上回ったが、沿岸南部では78.2%と、前回(89.8%)を下回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は9.6%と、前回(9.8%)を下回った。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んでいる」が31.5%と、前回(29.9%)を1.6ポイント上回ったが、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が78.7%と、前回(78.7%)と横ばいであった。また、「あまり進んでいない」「進んでいない」の合計は3.2%と、前回(4.7%)を下回った。

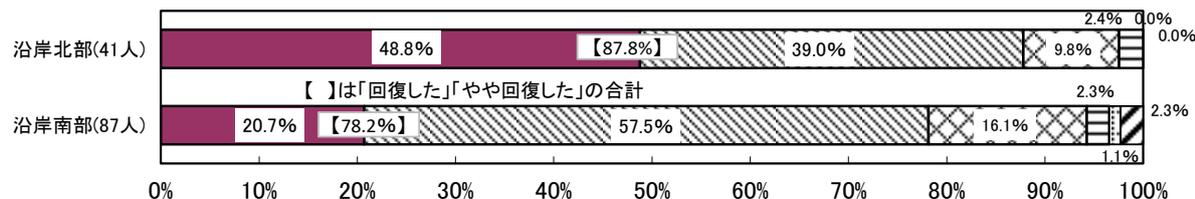
高台整備や災害公営住宅の完成に伴い、応急仮設住宅の撤去が進むなど、多くの方々の住環境が改善されている声がある一方、再建後の生活面の不安や応急仮設住宅に残された方への心配の声もあった。

① 被災者の生活の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、被災者の生活は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

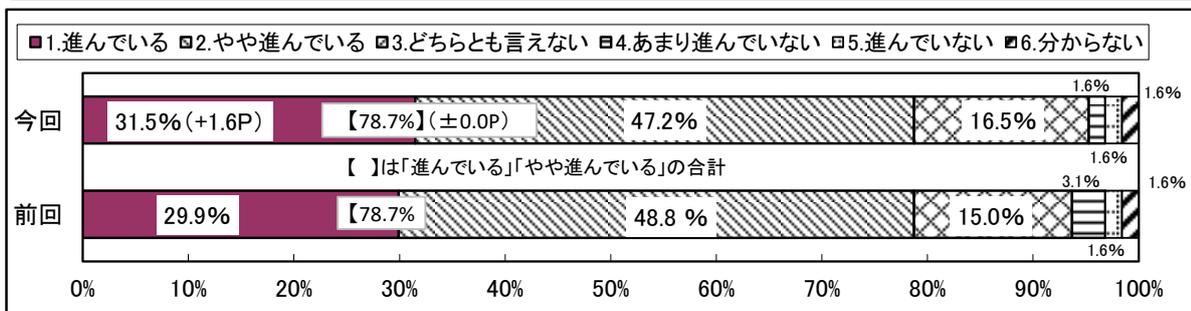


地域別

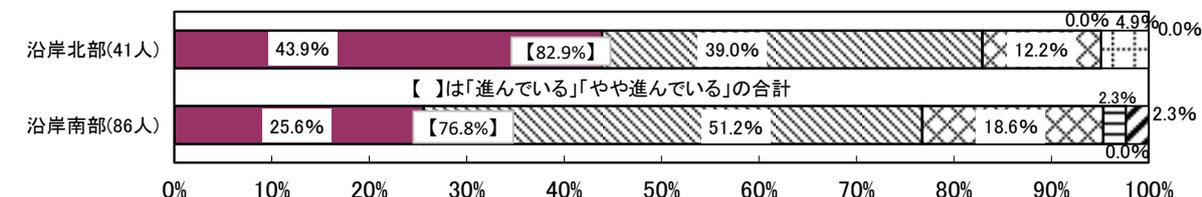


② 直近6ヶ月間(概ね1月から7月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月間程度)被災者の生活の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.回復した」 又は 「1.進んでいる」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆仮設住宅がなくなった。建設・土木の新規高卒者への求人も減り、新しい工事もなくなりつつあって、復興も落ち着いてきたことを示していると感じている。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部) ◆道路状況が津波前より良くなりました。買い物、通院が便利になりました。生活が良くなったと思います。鉄道が開通すれば高齢者の方々も、便利になると思います。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆求人倍率は相変わらず高倍率で、ある意味では震災前よりは景気が上向いていると感じる。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆堤防の整備、三陸復興道路の建設は順調に進んでいる。周囲の方の生活も、以前と同様の生活まで回復しているようだ。今後のヴィジョンをしっかりと持って、街の活性化を図っていかなければならないと感じる。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸北部) ◆仮設住宅はすべて撤去され、公営住宅や自己再建し生活している。最近も中心街に店舗が再建されている。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸北部)
<p>「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆仮設住宅から公営住宅等に移る方が多くなり、ここ1年で仮設入居者が1000人以上減った。しかし、未だ2000人程度が仮設住宅で暮らしている。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部) ◆住宅等の建物については概ね回復しつつあるように感じられるものの、再建そのものを断念しているケースもあり、被災前まで回復したとは言い難いものがあると思われる。(40歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸北部) ◆私の住む高台地区(防集)には、約9割の住宅が建ち、震災前の平穏を取り戻したように見える。しかし、多額の住宅ローンを抱えている方もいるので、返済が滞ったことを考えると心配な面もある。(40歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部) ◆嵩上げ地に自宅や商店を再建となると、金融機関での借入れ、年金制限、又、後継者問題など新たな悩み、仮設店舗で終りにすれば残りの生活に困るなど大きな問題に直面している方の話も聞かれます。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆仮設在住が6世帯となり、今後9月には2世帯が自宅再建で退去となる。土地引渡しは来年3月の世帯もあり、不安を訴えている。仮設から仮設への転居もいやではあるが、考えざるを得ない現実がある。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆高台移転者並びに公営住宅入居者の生活は落ち着いてきた様に見える。若干公営住宅入居者の3階・4階の住民がエレベーターが無い為、外出が少なくなりコミュニケーション不足になっているようにも見える。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部) ◆震災で荒れていた土地も、盛り土をして整備され、新築の家が完成している。震災をきっかけに子ども夫婦と一緒に暮らすことになった高齢者の方々には喜んでいる。何も悪いことばかりではなかったと思う。(39歳以下,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆土地整備が進み、住宅再建が加速している。仮設住宅も空室が多くなり回復しているのは確かだと思うが、反面、「売地」となっている土地もありその土地の利用等も考えなければ虫喰い状態の街になると思う。(39歳以下,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆雇用関係の数値が良い。高校生の地元就職も進んでいる。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆インフラ整備は日増しに進歩が見られる。しかし、特にも市街地への商店の開店はかなり遅く感じられ、市民の声からも不安視の意見が聞かれる。復旧工事の遅れに伴う、将来の生業の不安感があるようである。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆災害公営住宅も完成し皆住居の心配はなくなったが、今後の住宅の家賃がどうなるのか不安を感じている人達がいる。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸北部) ◆沿岸部漁業経営者はそれぞれ仕事の種類にもよります。養殖ホタテ、ホヤ、貝毒などで販売中止で大変なようです。大型船は今年はおかたないさだ魚は値段よく大変喜んでます。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率に概ね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など
 教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など
 産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

3 調査結果の概要(2) 地域経済の回復に対する実感

○地域経済の回復度については、「回復した」が20.3%と、前回(14.8%)を5.5ポイント上回ったが、「回復した」「やや回復した」の合計は57.8%と、前回(57.8%)と横ばいであった。また、「あまり回復していない」「回復していない」の合計は9.4%と、前回(5.5%)を上回った。

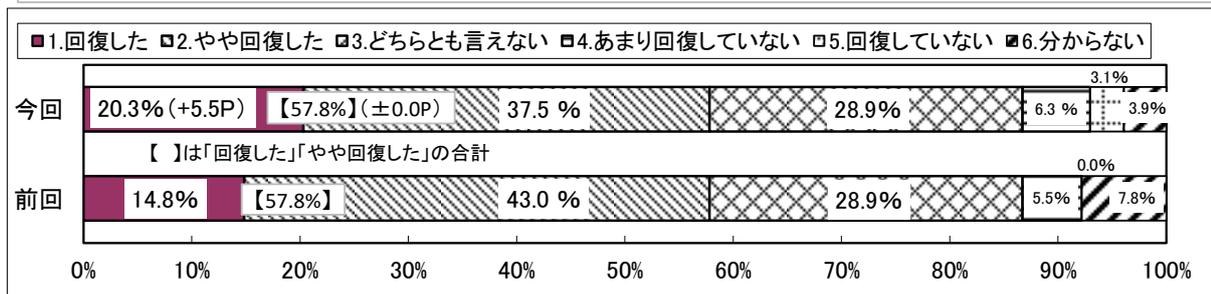
○地域別では、「回復した」が、沿岸北部で26.8%と前回(20.0%)を上回り、沿岸南部でも17.2%と前回(12.5%)を上回った。「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で70.7%と、前回(72.5%)を下回ったが、沿岸南部では51.7%と、前回(51.1%)を上回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は19.0%と、前回(21.4%)を下回った。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んでいる」が17.3%と、前回(16.5%)を0.8ポイント上回ったが、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が48.8%と、前回(48.0%)を0.8ポイント上回った。また、「あまり進んでいない」「進んでいない」の合計は7.9%と、前回(4.7%)を上回った。

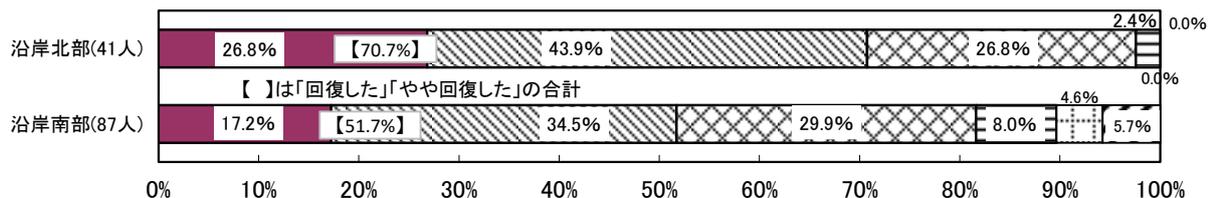
仮設営業から本設営業に移行する店舗が増え、中心市街地をはじめ街に賑わいが出始めているという声がある一方、企業の人手不足や後継者不足、高齢化に加え、サケやサンマなどの漁獲量減少・復興工事終了後の工事減少に対する不安の声もあった。

① 地域経済の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、地域経済は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

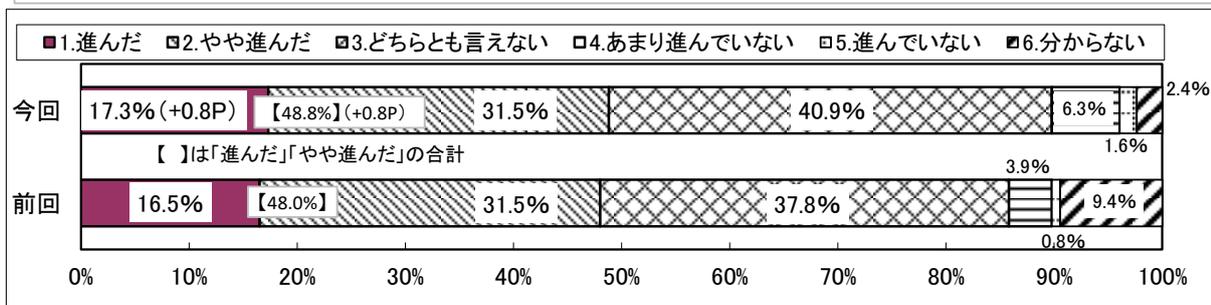


地域別

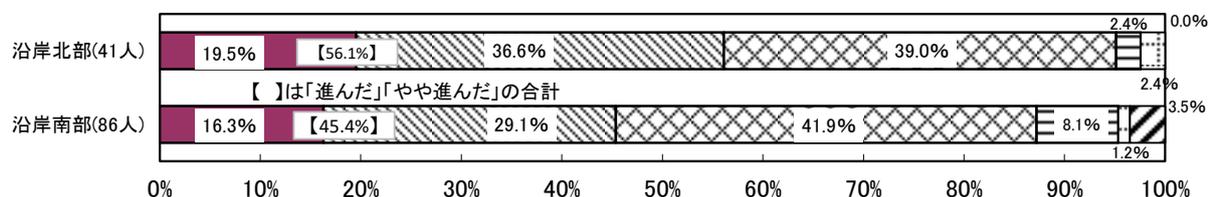


② 直近6ヶ月間(概ね1月から7月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)地域経済の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.回復した」 又は 「1.進んだ」 の理由</p>	<p>◆今年の新規高卒求人が、6月19日現在97件303人となっており、29年度年間求人数284人をすでに上回っている。事業所側高卒者採用になみなみならぬ意欲を感じるから。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆地域経済が震災前より活性化している。ただ、水産加工業の今後の先行きが不透明だ。不漁や人手不足、流通大手による製品の買いたたきなどで、震災前よりも生産規模を大きくした会社ほど固定費がかさんでいる。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆震災で店を流されてしまった人が、仮設店舗からどんどん新店舗を建設して事業拡大を図っている。間借りしていた会社の事務所も次々に独立している。(39歳以下,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p>
<p>「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んだ」 の理由</p>	<p>◆浅海漁業はある程度活気を呈している。しかし、回遊魚の基幹魚種である「鮭・イカ」の不漁は深刻である。「オール」の完成は周辺の商圏域の活性化に繋がっているが、工事関係者減少の影響がではじめている。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆農林水産業は回復したと思います。高齢者が多く、養殖漁業をやっている人が少なくなりました。田については高齢のため、自分で稲作をせず役場が決めた委託事業者が稲作をしています。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆飲食店は順調そうです。商業については集約され、立地によっては明暗が分かれてきているようです。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆被害を受けた水産業についてはその後徐々に設備等の回復が進んできていたものの、この地域では台風被害の影響が未だに大きく残っており、被災前との比較では十分な回復には時間を要するものと思われる。(40歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p> <p>◆フェリー就航もあり今後も様々期待されることがあるが、いかんせん若者が震災以降地域を離れて住宅を新築し生活をしている為慢性的な人手不足にある。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆陸前高田の浜に活気を感じる時が増えてきた。かきむきや浜の作業のため海で働いている人が前より多くみられる。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<p>◆復興工事での仕事が終わりとつあるので、暇になった業者がある反面、町中の整備もすすんできたので本来の生活にもどりつつあると思うけど事業所によっては復興工事後の体制について悩んでいるようだ。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆水産関連では社屋加工場等の再建が震災前の水準まで進められているが、鮭、サンマ等の記録的な不漁や慢性的な労働力不足により稼働状況は今一つである。“安定継続的な従業員の確保”が課題である。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆後継者不足や高齢化があり、又、サケをはじめとして、不漁が続いており、水産加工業者も困っている。沿岸南部のある水産加工業者は、魚不足のため、業務用レモンをスライスして、急場を凌いでいる。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆ここ2、3年は、サケやサンマ、スルメイカなど宮古を代表する魚の不漁が続いている。それが解消されない限り、回復したと感ずることはないと思う。フェリーの就航も、どれほどの効果があるのか疑問に思う。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p> <p>◆一時は回復が進んでいるように思えたが、昨今の海産物の不漁があり、経済的には足踏み状態かと思う。また、公共商業施設で営業されているお店の中には、家賃を滞納している所もあると聞く。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆復興道路のおかげで、買い物や遠隔地の大きな店ですることができるようになった。方や、昔からの商店街は廃れる一方である。新しく建てた中心市街地の商店以外の個人店舗は苦しい。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p>
<p>「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<p>◆支援により漁船の配備や農地の復旧は完了したが、高齢化、後継者不足などで停滞しているように感じるし、復旧工事などの公共工事が終了したことで作業員などが引上げ地元商店などの活気が薄れたように感じる。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p>
<p>「5.回復していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由</p>	<p>◆大型店では、それなりに集客があり売上げもあると思いますが、個人商店は影響があると思います。被災地区での商店街が進んでいない。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p>

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率に概ね準じています。

注3) 掲載内容は、同意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など
 教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など
 産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

3 調査結果の概要(3) 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

○安全なまちづくりの達成度については、「達成した」「やや達成した」の合計が56.4%と、前回(59.1%)を2.7ポイント下回った。また、「あまり達成していない」、「達成していない」の合計は11.1%と前回(9.5%)を上回った。

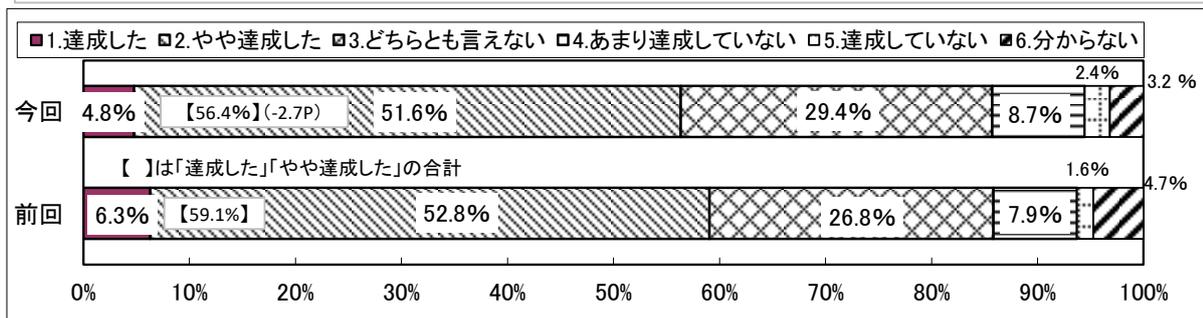
○地域別では、「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で68.3%と前回(66.7%)を上回り、沿岸南部では50.6%と前回(55.7%)を下回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は17.7%と、前回(11.0%)を上回った。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が68.3%と、前回(64.0%)を4.3ポイント上回った。また、「あまり進んでいない」「進んでいない」の合計は9.6%と、前回(6.5%)を上回った。

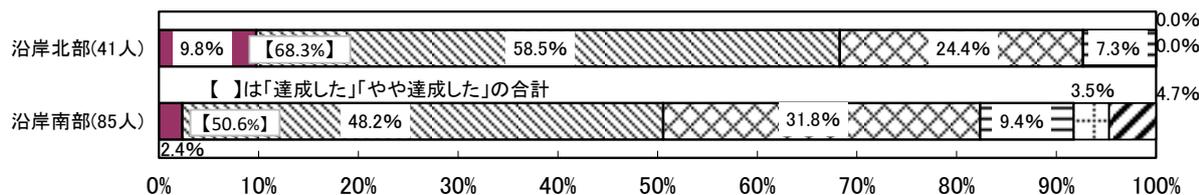
嵩上げ工事の完了や防潮堤・水門・防潮林の進捗状況を評価する声がある一方、工事の完了までは安全が実感できないという声や住民の危機管理意識の低下への不安の声もあった。

① 災害に強い安全なまちづくりの達成度(震災以降における全体の達成状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、災害に強い安全なまちづくりは、被災前と比べてどの程度達成したと感じますか？

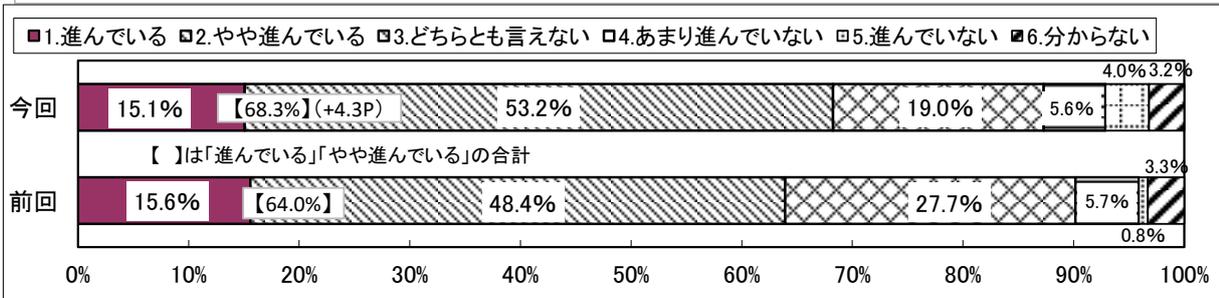


地域別

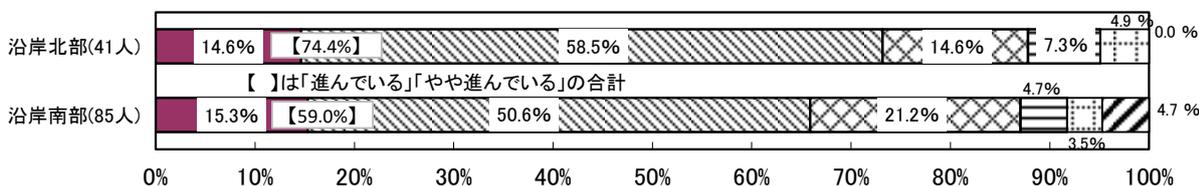


② 直近6ヶ月間(概ね1月から7月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)災害に強い安全なまちづくりの進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 達成度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.達成した」 又は 「1.進んでいる」 の理由	<p>◆防潮堤及び第2線堤である県道の嵩上り工事も完成した。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆整備は十分だが、予想以上の自然災害に備える住民の意識が一番重要だと思う。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p>
「2.やや達成した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由	<p>◆防潮堤については修復が完了していると見られるが、この地域においては台風被害の方が大きく、防災面ではこの面での進捗こそ重要度が高い。河川工事を始めとした復興工事が半ばであり、今後の進捗が待たれる。(40歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p> <p>◆嵩上げとか高台とか平成32年完成との事ですが、時間のかかり過ぎに住民が外に出てしまうと思います。嵩上げ希望でも、高台より工事も遅く成りました。完成が一部だけです。(どうしてか不明です。)(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆巨大防波堤で、自然が遠くなったことに疑問は残るが、自動車専用道「三陸道」のうち「山田～宮古」開通は、現在約15分の短縮となった。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆嵩上げ工事が終り、再建が軒並みに行われています。震災直後は、この地に再建は無理と思いましたが。今すばらしい土地に生まれ変わり、「待っていれば良かった」との声は少なからず聞かれます。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆県内外の大学生が防災教育で訪問してくれたり、地元小中学校と防災をテーマに交流をしたりなど、若い世代が更に下の世代に防災を教えるといったような動きがあり、非常に素晴らしいと思う。(39歳以下,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p> <p>◆嵩上げ、防潮堤の整備は進んでいると思う。釜石から宮古の道路の整備も進んで便利になってきたが、いくつかのトンネルでラジオが受信できないのは、防災上問題があると思う。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆防潮堤工事が進み「すっかり海の見えないまちになってしまったな」という声が多くなった。道路工事も進み、便利になったが、「素通りされない街づくりをしなくては」という声もきく。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆大船渡では防災観光交流センターが建ち、市民や観光客が自由に見学できる。防災意識が高まると期待される。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p>
「3.どちらとも言えない」 の理由	<p>◆防潮堤・水門工事が進んできた。震災前のもよりはるかに大きい。大雨での避難指示等へのリアクションが悪い。時間の経過とともに、危機管理意識が低下している感がある。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆漁業者にとっては、津波で船や資材が流されるのはあたり前で、命さえ助かれれば、その後のフォロー次第でなんとかなるので災害に強い安全なまちづくりというのが、しっくりこない。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p> <p>◆工事の進捗状況に差が出ている。同様工事業者によって人員などによる遅れがあるのかもしれない。また、地元では震災によって壊れた農地への橋がいまだに落札されていない。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆釜石、大槌においてはまだ防潮堤の整備が終わっておらず、まだ安全という実感はないと思います。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p>
「4.あまり達成していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	<p>◆防潮堤、水門工事の遅れが目立ちます。まだまだ完成まで時間を要すると思われませんが、災害に強いまちづくりの為早期完成をお願いします。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p>
「5.達成していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由	<p>◆防潮堤の嵩上げだけでは津波の被害は防げないと思う。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p>

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率に概ね準じています。

注3) 掲載内容は、同意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連：応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など
 教育・福祉施設関連：小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など
 産業・経済・雇用関連：漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

いわて復興ウォッチャー・動向判断指数(DI)の推移

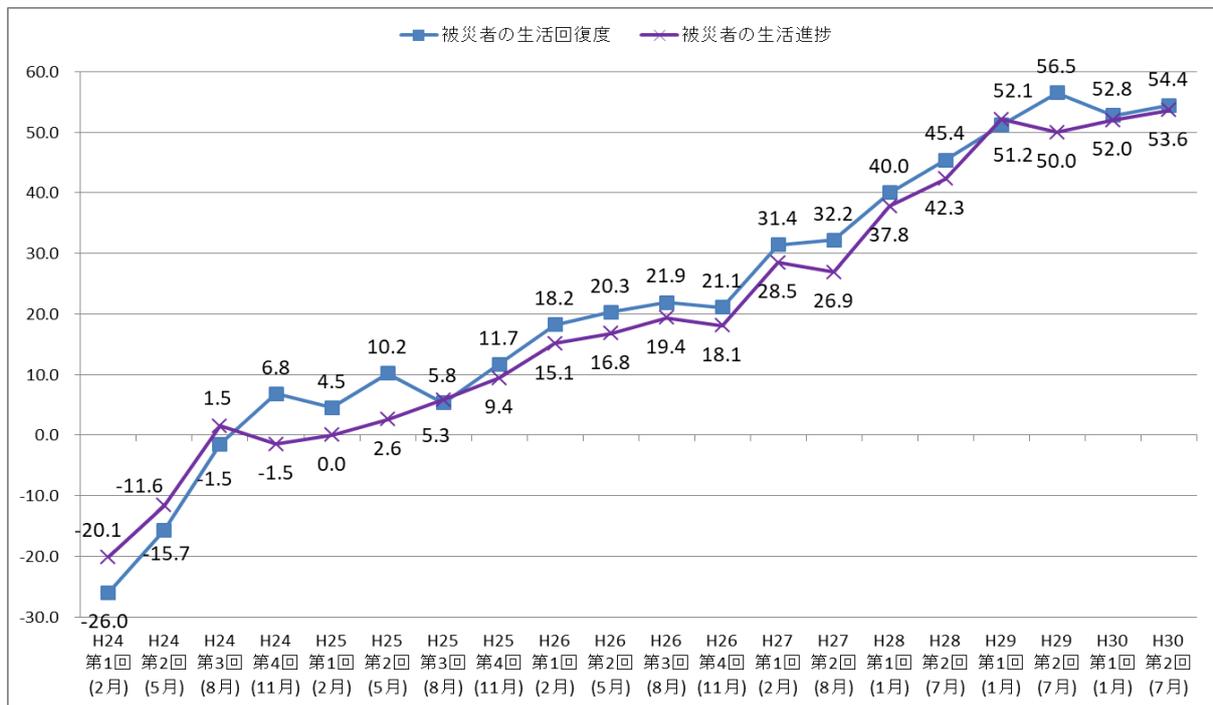
＜動向判断指数(DI)＞

掲載する折れ線グラフは、各回の動向判断指数(DI)について時系列にその推移を表わしたものである。動向判断指数(DI)は、「回復した」の回答数がA、「やや回復した」の回答数がB、以下「どちらともいえない」がC、「あまり回復していない」がD、「回復していない」がEのとき、次の式で算出する。

$$\text{動向判断指数(DI)} = \{ (A \times 2 + B) - (D + E \times 2) \} \div 2 \div (A + B + C + D + E) \times 100$$

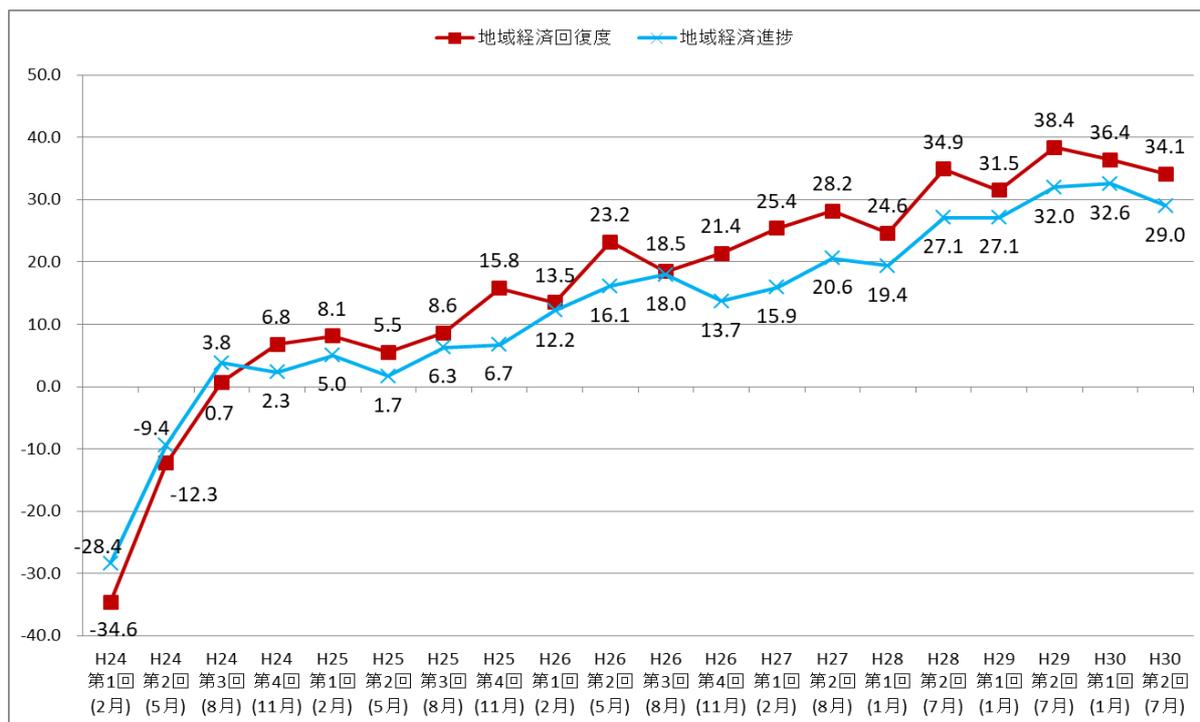
(注) 上記「回復した」は、設問によって「達成した」「進んでいる」等となる(他の選択肢についても同様)。

【被災者の生活】回復度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



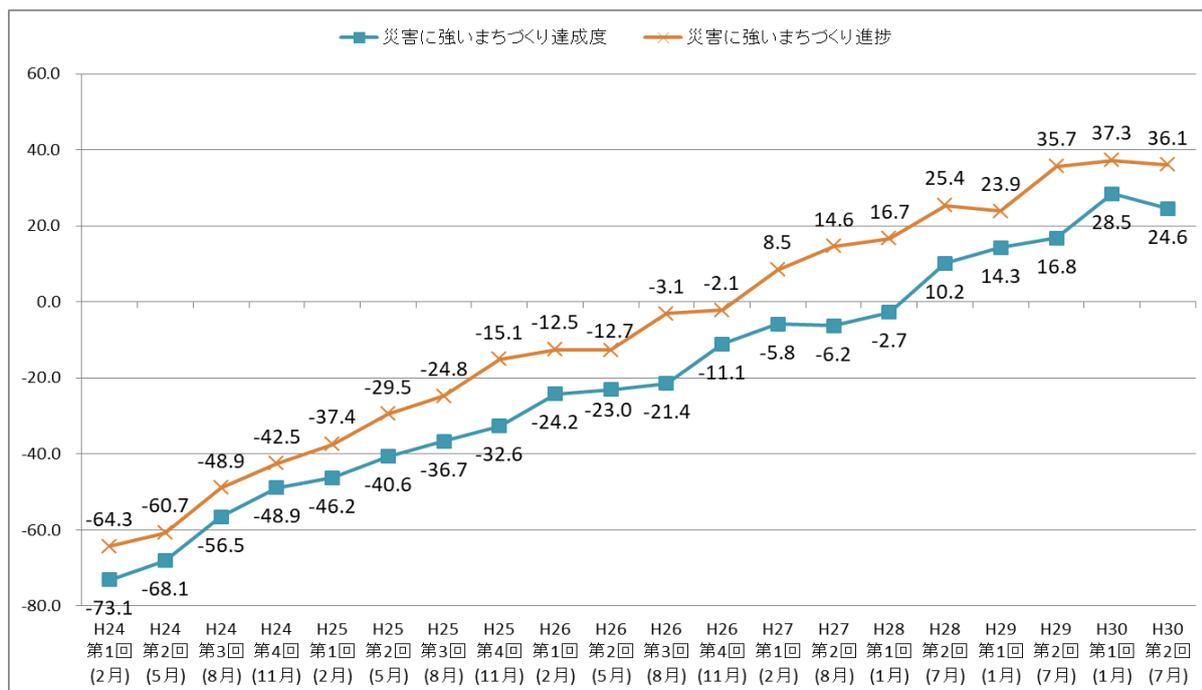
※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、概ねH30年1月～H30年7月)を指す。

【地域経済】回復度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、概ねH30年1月～H30年7月)を指す。

【災害に強い安全なまちづくり】達成度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、概ねH30年1月～H30年7月)を指す。

平成30年【第2回】
「いわて復興ウォッチャー調査」
結果報告

発行

平成30年9月7日

岩手県

復興局 復興推進課

〒020-8570

岩手県盛岡市内丸10-1

電話(019)-629-6945

ホームページ：岩手県震災復興・復興の動き

<http://www.pref.iwate.jp/fukkounougoki/>